令和６年度第２回古賀市地域活動サポートセンター運営委員会

会議録

１．日　時　　令和７年２月21日（金）　14時00分～15時10分

２．場　所　　古賀市地域活動サポートセンター

３．出席者

（委　員）三木会長、蓮尾副会長、石原委員、筒井委員、宮沖委員、中野委員、井上委員、島田委員、太田委員、安谷氏（菊池委員代理）

（事務局）健康介護課　課長：松尾
健康づくり係　係長：吉田、他６名

４．欠席者

菊池委員

古賀市地域活動サポートセンター条例施行規則第16条第２項の規定により委員定数10名のうち過半数の出席があり、会議は成立。

５．傍聴者　　なし

６．議　題

（１）令和６年度地域活動サポートセンター活動状況報告

７．資料

【資料１】令和６年度地域活動サポートセンター活動状況報告

【資料２】地域支え合いネットワーク通信　Vol.14

【資料３】地域支え合いネットワーク通信　Vol.18

８．会議内容

（１）令和６年度地域活動サポートセンター活動状況報告　…資料１～３

・事前質問について…受付なし

・事務局より、地域活動サポートセンターの役割及び令和６年度地域活動サポートセンター活動状況報告について説明。

（２）その他

情報共有の場として、所属する団体の課題点を共有。

【内容】

（委　員１）シニアクラブ連合会の加入数の減少や高齢化､役員のなり手不足が課題である。他の団体の加入状況、活動内容、工夫点について聞きたい。

（委　員２）自分の所属する行政区のシニアクラブは、連合会へは加入していない。

（委　員３）自分はシニアクラブ未加入だが、市のボランティア活動は行っている。地域の活動へは今まで参加してこなかったため、入りづらい。

（事務局）上位団体がある組織に所属すると国や県からの情報を共有できるのがメリット。高齢化においてどの地域・団体も世代交代、次の世代の育成が難しいと聞いている。各団体の工夫を聞かせてもらい、それを横に広げていく役割を担いたい。

（委　員４）自分の地域のシニアクラブは勧誘がなく、具体的な活動をよく知らない。自分の地域では現在、全世代を対象にした活動に取り組んでいる。シニアクラブのように対象が狭いと活動を継続することが難しいのではないか。今後、ひとつの団体が単独で拡大・発展するのは難しいのではないか。他の団体と一緒に活動していくのも選択肢のひとつとしてありなのではないか。

（委　員５）自分の地域は新しい地域のため当初高齢者が少なく、シニアクラブが発足しなかった。現在は 65 歳以上で福祉会に加入する流れ。行政区には福祉会、成人学級、子ども会、ヘルスステーションの活動があるが、横のつながりをもって活動に取り組んでいる。

（委　員６）各委員の話を聞いて、会を存続することの大変さを感じている。存続・人手不足解消のため、加入・未加入でも参加できる活動の機会をもってはどうか。役員の負担が少なくなるような配置、仕事内容を見直してみては。

（委　員７）自分の地域では、他の地域から福祉会活動などに参加する人もいる。

（委　員８）自分の地域では防犯パトロールなどの活動が行われている。自分もできることがないか考えながら聞いていた。

（事務局）すべての行政区において、地域の高齢化や担い手不足などの課題が出ている。行政内では、地域のもつ課題について情報共有をしている。その中で得られた情報を地域や関係団体に還元していき、課題解決につなげたい。

（委　員９）地域を支える団体やサポーターなどの周知については行政職員が説明した方がよいのでは。声かけが大切。ボランティアの窓口が分かりにくい。市のネットワークができていない。

（委　員１０）今年度からシニアクラブに加入した。ちょっとしたきっかけで地域や団体の活動が広がる。皆で知恵を出し合えれば。

（事務局）情報の見える化やきっかけづくりは市の役割。今後も努力したい。